

1 学校教育目標

○よく考え進んでやりぬく子 ○あかるく強くたくましい子 ○みんな仲よく助け合う子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○確かな学力、心の力、体力を確実に高めることができる学校 ○児童、保護者、地域、教師が協働し、安全、安心で皆から愛される学校
○児童・生徒像	○友達を大切にし、相手の立場を考えて行動し、どのような人とも公平公正に関わることができる児童 ○様々なことに挑戦し、目標に向かって努力し、課題解決しようとする児童
○教師像	○子供たちに深い愛情を注ぎ、いけないことはいけないと毅然とした指導ができる教師 ○教師仲間同士協力し、助け合い、鹿一小の子供たちの成長を伸ばすことができる教師 ○子供と共に協力し、授業力向上のために努力を惜しまない教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○地域が協力的であり、「私たちの町の学校」という雰囲気をもっている。そのため子供たちが校外で遊んでいる場面でもいけないことをしっかり指導してくれ、子供たちを温かく見守ってくれている。

○子供たちはとても素直であり、教師の指導に従順に従って行動できる反面、教師の指示を待っているのみで、自ら考えて行動することができる児童が多いとは言えないところが見られる。教師側も過干渉になることがあり、児童の思考を止めてしまうことがある。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力の向上 ○基礎学力向上策を充実させ、定着を図る→区調査通過率 80%以上＝R3 年度 2 科達成

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携 ○連携の推進と円滑な接続をめざす→教員の充実度は図れず。2 度の会議は実施できず。

重点的な取り組み事項－3 心の教育の推進 ○自他を尊重する気持ちと態度の育成をめざす→児童の肯定的な自己評価 80%以上＝学校評価 3.5/5

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	授業力の向上並びに学力の向上	○	○	○	○	○
3	幼保小中の連携	○	○	○	○	○
4	心の教育の推進	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
・ 単元テスト 80%以上を学級の80%以上を達成する		・ 区調査通過率 80% ・ 単元テスト 80%以上		・ 区調査通過率 81.7% ・ 単元テスト通過率 78%		・ 区調査では通過率目標を達成できた。単元テストは目標を2ポイント下回った。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	休業中の単元克服特別講習	CD層児童算数	各長期休業中	・ 校長が到達目標値の低い単元を厳選し、短期集中の克服講習を実施する	・ 修了認定テストにて評価	・ 講習終了ごとにテストでの到達 85%	1年生、5年生に対し10の合成分解、割合の単元で実施。	終了テストにて70%の成果であった。	○
継続	パワーアップタイム	全児童算数国語	朝の時間	・ 各学級、専科教員が基礎基本の習熟を図る。	・ 小テストでも得点確認	・ 小テストの到達 90%以上	予定した日程を100%実施した。	小テストでは常に90%を超えた。	◎
継続	プレイバックタイム	CD層児童算数国語	放課後	・ CD層の児童を放課後に基礎基本の習熟のために指導する	・ 小テストでも得点確認	・ 小テストの到達 90%以上	予定した日程を100%実施した。	小テストでは常に90%を超えた。	○
継続	朝読書	全児童国語	水の朝	・ 全学級で朝の15分間集中して読書をする。	決まった本をしっかりと読んでいるか	読書カードにて冊数の確認	予定した日程を100%実施した。	決められた日の読書がしっかりできた	○
継続	ICT機器の有効な活用	全教員全教科	随時	ICT機器の効果的な活用を推進する。AIドリルの効果的な活用	年3回中1回の授業観察時	ICT機器を使用した授業を行う。	AIドリル教科月間では区平均を超えた	ICTの活用がすっかり定着している。	◎
継続	家庭学習の定着と充実	全児童国語算数	毎日	【指導者】各担任 【目的】学習内容の定着及び家庭学習の習慣化。 AIドリルを活用し達成度を把握する。	毎日の家庭学習状況の点検と実施率把握	全員 100%	全校の宿題平均提出率 90%	高学年になると提出率が下降する傾向が見られる。	○

重点的な取組事項－２		授業力の向上並びに学力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
当該学年での学習内容の確実な定着		単元テスト—通過率(国算2科)80%以上の児童を学級の80%以上 区調査令和4年度目標通過率80%	・単元テスト通過率78% ・区調査目標通過率81.8%	・単元テストでは単元によって大きなばらつきが見られた。今後分析し弱点を強化する	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
パワーアップタイム	・朝読書(水) ・基礎学習(火、木)	・学力調査分析を基に学年全体の課題となる内容を吟味し段階的に定着を図っていく。	・AIドリル導入後はこれを中心に実施した。 ・漢字の小テストや計算の小テストを実施し、一定の成果があった。	・AIドリルでは常に高得点をマークする児童が多くいた。今後はこの意欲を継続できるようにしていく。	○
放課後補充指導・補習指導の充実	全学年原則毎日	・全校体制で指導に取り組む。系統化した内容を行う。	・全校体制で実施し、副担任の専科教員も参加し、指導にあたった。	・全教員が協力して実施することで、児童の意欲も高まってできた。	○
校長塾の実施	校長による個別指導	・毎昼休みの補充教室に下位層の児童を取り出し、管理職が指導を行う。	・1年生の10の合成分解、くり上がりくり下がり加法、減法 ・2年生かけ算九九の習熟	・毎日続けることで一定の効果があった。小テストにおいて複数の児童が100点を取ることができた。	○
【指導力向上】 校内初任研、若手研修会、ミドルリーダー研修会の実施	・初任研、若手研、ミドルリーダー研各20回 授業観察後の「アドバイスシート」を発行し啓発 ・校長室だより「おおぞら」にて授業スキルの紹介	【指導者体制】 初任、若手研(校長、主幹教諭、主任教諭)ミドルリーダー研修(副校長、主幹教諭) 【目的】授業観察を軸とした授業力指導力向上リーダーシップ力育成	・若手研修会、主任研修会を実施し、若手教員からは日頃の指導に役に立ったという感想が多くあった。 ・主任研修に関しては主幹教諭や副校長が中心となって実施し、教員のモチベーションの向上に寄与した。	・毎月若手研修会・主任研修会を実施できた。今後は、若手がどんなことに悩みがあるかを年度当初にアンケート調査を実施し、ニーズに合った研修にしていく。	◎

重点的な取組事項－3		幼保小中の連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。		<ul style="list-style-type: none"> 効果的な連携ができたと考える教員100% 学校評価 3.5 以上 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な連携ができたと考える教員が 96% (1 名のみ×評価) 学校評価は 3.8 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携事業がすっかり定着し、教員からは一定の高い評価を得ている。 	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校教員との交流	<ul style="list-style-type: none"> 準備委員会 2 回 各校 1 回ずつ授業公開・研究 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の研究授業実施 (年 2 回) 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業 2 回完全実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業者の決定の仕方に偏りが見られる部会の実施方法を改善していく。 	◎
保育園との交流	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の保護者会参加 	<ul style="list-style-type: none"> 年長保護者会での校長講話の実施 (各園 1 回) 	<ul style="list-style-type: none"> 谷在家保育園、足立このみ保育園にて実施 	<ul style="list-style-type: none"> 1 月 31 日に谷在家保育園の保護者会にて、入学までにおこなってほしいことを話す。 	◎
教員同士と児童、生徒同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> 教員間の情報交換 年長、1 年担任との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 情報共有会の開催 (年 2 回) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響により、10 月に 1 度のみ実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 10 月に給食交流を行った際に情報交換を実施し次年度入学児童の様子を 	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

【今年度の成果】

- 今年度より昼のパワーアップタイムを朝と放課後に設定したことで、時程にゆとりが生まれ、短時間でしっかりとした習熟ができた。
- 保育園との交流が3年ぶりに実施できたことで、5歳児が小学校へ向けての期待をもつことができた。
- 学力面において単元テストの通過率が昨年度より国語で1ポイント、算数では10ポイント増加した。
- 2月の学力定着度調査結果
- ◇通過率 国語 81.4% 算数 80.9%

【今年度の課題】

- 朝読書の時間の減少とともに、本を読む量も減少した。
- 園児の交流ができたが、教員同士の交流の機会を2回は実施していく必要がある。特に年度末に行うことが肝要である。
- 単元テストにおける単元差が大きく算数では図形や数量領域に課題が見られた。国語では物語文の読解に課題が見られた。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- 日頃より保護者、地域の皆様には大変お世話になっております。今年度は3年ぶりに宿泊学習が2泊3日で実施したり、社会科見学や遠足を通常通りに行ったり、学校公開を2回実施したりするなど、少しずつ日常がもどりつつあります。次年度は今年度以上に様々なことが通常通りにできるようになることを期待しているところです。次年度も「あたりまえのことをあたりまえに」をモットーに鹿浜第一小学校の教育活動の充実を図ってまいりますので、ご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

- 挨拶、返事、靴そろえの3つを励行し、学校内での基本的な生活習慣を確実に身に付けられるように指導しています。
- いじめのない学校づくりを目指し、いじめ未解決ゼロとなっています。
- 鹿浜第一小学校では子供たちが意欲的に学習に取り組めるように日々授業の工夫をしています。高学年では今年度から一部教科担任制を導入し、より専門性の高い授業を展開できるようにしています。(5年生 算数、理科、社会、図工、音楽、家庭科)(6年生 算数、理科、社会、国語、音楽、図工、家庭科)
- 学習発表会では日頃の学習成果を発表する場としています。
【例】2年生・・・生活科の地域の様子の学習と合わせたお店の紹介 6年生・・・英語の学習を生かした英語劇
- 今年度はパラリンピック金メダリストの高橋勇市さんを講師にお招きし、パラアスリートの精神を学びました。